

東アジアにおける眉庇付冑の系譜

マロ塚古墳出土眉庇付冑を中心として

The Lineage of *Mabisashi-tsuki* Helmets,
with a Focus on the *Mabisashi-tsuki* Helmets of the *Marozuka* Tomb

橋本達也

HASHIMOTO Tatsuya

はじめに

- ① 甲冑出土古墳としてみたマロ塚古墳被葬者像
- ② マロ塚古墳出土眉庇付冑の型式学的検討
- ③ 眉庇付冑の特徴ある属性をめぐる系譜
- ④ 眉庇付冑をめぐる技術系譜と製作組織
- ⑤ 頂部装飾と金工技術からみた眉庇付冑の系譜
- ⑥ 結語

【論文要旨】

国立歴史民俗博物館に所蔵されるマロ塚古墳出土の眉庇付冑はきわめて良好な遺存状況から一般的に錆びて出土する鉄製品では確認できない、さまざまな情報を読み取ることが可能である。本稿では、まずマロ塚古墳から出土した2点の眉庇付冑の型式学的位置づけを行った。その結果、この二つの冑はTK216型式段階という同時期に製作されながら、各属性は大きく様相を違える異なるタイプの冑であることを示した。

その上で、これらの冑を特徴づける代表的な各属性がどのような系譜から生み出されたのかを朝鮮半島・中国での出土事例を踏まえて考察した。その結果、かつて筆者等が論じ、その後、批判もあった眉庇付冑の製作技術は、帯金式という倭の在来の甲冑系譜、半島を経由する甲冑・冠・帯金具などの総合的な金工技術系譜、新規に創出される要素、これらを統合したものであるという見解をあらためて論じた。近年増加した韓国・中国の新出資料を踏まえても眉庇付冑の創出には総合的な技術系譜の複合によることをあらためて指摘し得ると考える。

また、眉庇付冑には中国東北地方の三燕に連なる要素がみられ、技術的には高句麗、新羅を経由する渡来系の工人群の関与があり、加えて三燕から百済に系譜をもつデザインも加えられたことを確認した。これらから、眉庇付冑は5世紀代の倭を取り巻く東アジア情勢が大きく反映された王権の象徴として創出されたものであることを指摘した。

【キーワード】 古墳時代中期、眉庇付冑、甲冑技術系譜、甲冑製作組織、東アジアの甲冑系譜